

## 大人の役割

吹奏楽部及び瑞浪北中ブラスバンドクラブに所属している生徒が、過日行われたアンサンブルコンテストの結果の報告に来ました。練習時間が少ない中、また、「出場しない」という選択肢もあった中、自分たちで出場を決め、この状況下で努力を積み重ねた生徒たち。報告の中には、来年度に向けての意気込みまでが込められていました。

報告を受けながら、私は当然のことを改めて考えました。

「生徒にとっては部活動もクラブもないのだ。吹奏楽に携わりたいという気もちがあるだけなのだ。平日は部活動、土日はクラブという区別を頭では理解できても、吹奏楽に取り組みたいという心は、部活であろうがクラブであろうが同じだ。」

クラブとして出場したのだから、学校とは関係ないと杓子定規に考えることはできません。努力が報われれば、一人でも多くの人に認めてもらいたい、知ってもらいたいという気もちはがんばった本人からすれば当然のこと。大人の都合で、生徒にそれを割り切らせることはあってはならないと思います。

私はまだ部活動の顧問をやっていた時のことです。クラブの指導者S氏とは密に連絡を取っていましたので、話題が生徒のことになることもしばしばありました。

「Aは最近学校でどんな様子やね？クラブでは、今まで仲のよかった仲間と一緒にいることが少ないような気がするけど。」  
「オフに入ったので、(クラブの練習は)体力づくりの切り替えだよ。学校でもやってもらえるとありがたいけど。」

「日曜日の練習試合でBがいいピッチングをしたよ。球もずいぶん速くなったし、変化球もキレていたよ。」

S氏は、クラブの時の選手の様子を細かく教えてくれました。私も提供できる範囲で、学校での学習や生活の様子を話しました。先のB君には、「練習試合でいいピッチングをしたそうだね。Sさんがうれしそうに話してくれたよ」と私が言うと、満面の笑みを浮かべて「ありがとうございます！」と答えました。そのことを今でもはつきりと覚えています。

働き方改革が叫ばれる今だからこそ、生徒たちの頑張りについて、クラブと学校が垣根なく認め励ましたいものです。北中に関するクラブに限りません。入っている部活動とは全く違うスポーツや習いごとについても同様です。

珠算や書道などの習いごと、楽器演奏、舞踊、歌舞伎、ゴルフ、空手、硬式野球、水泳……まだまだたくさんあるでしょう。以前勤務した学校には、レーシングカートに取り組んでいる生徒もいて、全国レベルのレースにも参加していました。

いずれにしても、生徒が取り組んでいることならば、私はその努力を大いに認めたいと思います。それが、「大人の役割」だと考えるからです。

(一月八日 記)